

### 活用事例



#### JA 紹介

『JAようてい』は、平成9年3月に黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町の8JAが合併し、JAようていが誕生しました。地域の農業は、稲作、畑作、野菜、酪農畜産など幅広く生産されており、気候・土壌・風土条件に適した多様な経営形態となっております。JAようていのトップブランド、馬鈴薯は明治14年からの栽培。現在のように支持を得るまでには「京極高德子爵

をはじめ、改良の苦汁を重ねた歴史があります。合併以降、JAようていは持続可能な農業や地域社会への貢献、組織・運営の健全性を維持し、平成26年3月には、全国農業協同組合中央会より「優良表彰農業協同組合」として選ばれています。今後も引き続き、組合員のためのJAとして事業を推進し、地域に根差したJAを目指して参ります。

#### 職員 紹介

JAようていでは生産活動に関する情報を元にした生産実績表※を組合員へ配布されております。生産実績表の作成及び営農支援システム利用部署に所属している営農推進課 後藤課長、岩崎職員、足立職員の御三方にお話をお伺いしました。  
※営農支援システムの生産性分析(組合員経営サポート)は、JAようてい様の生産実績表を参考にさせて頂いております。



営農推進課 後藤課長



営農推進課 岩崎職員



営農推進課 足立職員

#### 導入背景

#### 組合員への情報還元

販売実績、生産履歴、土壌分析、施肥設計といった生産活動に関する情報の蓄積と、組合員へフィードバックすることを目的として平成23年に営農サポート室を設立しました。この目的を達成するために『生産実績表』という資料の作成に取り組み始めました。

平成28年には組合員に対してより密着度を高め、購買事業や販売事業におけるJA利用率を向上することを目的に、『出向く営農』を実践する営農推進課の体制強化を図りました。さら

に営農支援システムを利用することで、圃場情報を把握しつつ、生産実績表の基礎となる生産履歴等のデータを圃場に持ち出せることで、よりリアルタイムに近い形で組合員へ情報を提供できると考えました。その様な取り組みが組合員サービスの向上に繋がると判断し、導入を決めました。

現在、営農推進課は本・支所含めて41名で、1人あたり20~30戸の担当を持ち、営農サポート室の果たしていた役割は本所営農推進課が担っています。

#### JA資産の活用

#### 生産実績表の作成

最初に意識したことは組合員からの要望に応えるにはどうすれば良いかという点でした。要望されていた内容は次の通りになります。

- ・自分の順位を知りたい (JA内の生産者の中で)
- ・自分の成績を知りたい
- ・優良生産者はどのような農薬を使い、どういったタイミングで作業を行っているのかを知りたい

当時の営農サポート室は3名体制であり、組合員にデータを還元するには作業の効率化が必須でした。そのため各種システム(防除計画システム、施肥設計システム等)を営農サポート室でExcelを活用し、構築したシステムもありました。さらには生産履歴からどの品目でどの肥料・農薬が使用されているか、地区別ではどの肥料・農薬が使用されているか、それらのコストはいくらなのかといった情報を組み合わせ、生産実績表を作成していました。現在と比較すると簡易的な帳票でしたが改善を重ね現在の形になっています。

生産実績表の生産分布表イメージ (営農支援システムより出力)



